第２１回　ジョン・ケンドリック杯小中学生英語スピーチコンテスト

～2014 年 12 月 7 日、和歌山県立図書館文化情報センターで開催！～

和歌山支部では、小中学生を対象にした第２１回英語スピーチコンテスト大会を、和歌山県立図書館文化情報センター２Ｆのメディア・アート・ホールで開催致しました。



本大会は、ペリー提督の浦賀来航に先駆けること６２年前の１７９１年(寛政３年)、４月２８日、和歌山県串本の紀伊大島にある樫野に、２艘のアメリカ船が交易を望んで来航した。その内の「レィディ・ワシントン号」の船長であり、指揮官でもあったジョン・ケンドリック氏が日米交流を目的に紀州を訪ねた最初の米国人としての偉業を顕彰し、広く人々に紹介することを目的として、１９９２年から始まり、京都外国語大学校友会和歌山支部が受け継ぎ４年目の支部事業となります。

本コンテストでは、来賓として山田勝明校友会副会長をお招きして、児童生徒・英語指導者・家族・校友会関係者・学校関係者・審査員・実行委員スタッフら合わせて約１００名が見守る中、応募者４６名から一次審査を通過した小学生１２名と中学生１２名が日頃の学習の成果を存分に発揮しました。小学生の部では、イソップ物語から「The Hare and the Tortoise(ウサギとカメ)」、「The Crow and the Fox(カラスとキツネ)」、「The Wind and the Sun（北風と太陽)」の３つの課題文の中から選び、英語で暗唱し表現豊かに発表しました。中学生の部では、自分の夢や家族の大切さ、クラブ活動や習い事から学んだこと、自分が体験して分かったことなど、自由タイトルの英文を４分以内にまとめ、中学生らしく堂々と発表しました。子どもたちが発表する暗唱やスピーチは、会場の人々の心に響き、たくさんの感動を与えてくれました。

京都外国語大学よりジェフ・バーグランド教授、京都外国語大学短期大学より河野弘美講師、和歌山県教育センター学びの丘から木皮享副所長、県立高等学校外国語講師(FLT)のエレイン･ヤング先生を審査員に招き、暗唱度・発音・アクセント・イントネーション・表現力・スピーチの内容などにポイントを置いて審査が行われました。スピーチ終了後、審査委員長のジェフ・バーグランド先生からは、「今日は素晴らしい内容のコンテストで、とても楽しかった。



英語というのは、自己発信型の言葉だから、英語の表現方法をもっと豊かにして、英語での発信力を身につけて欲しい。」とのお言葉をいただきました。

審査の結果、小学生の部では、課題文「The Hare and the Tortoise」を発表した智辯学園和歌山小学校６年生の笹井理莉子さんが最優秀賞に、有田市立保田小学校５年生の梅本華さんと、有田市立糸我小学校６年生の林尭輝君が優秀賞に、和歌山市立松江小学校５年生の西紅音さんと、有田市立宮原小学校５年生の尾藤杏成君が奨励賞に輝きました。また、中学校の部では、「What is the real effort?」と題してスピーチした和歌山県立古佐田丘中学校３年生の中部朱暸さんが最優秀賞に、新宮市立熊野川中学校３年生の仲夢仁さんと、和歌山市立西浜中学校２年生の上田恭子さんが優秀賞に、和歌山県立日高附属中学校２年生の樫原佑実さんと、和歌山市立西和中学校３年生の中西健志君が奨励賞を受賞しました。なお、大学からは参加賞、校友会本部からは入賞者へ副賞の辞書と参加賞、和歌山支部からは入賞者への楯と出場者全員に図書券が贈られました。大会後には出場者全員に記念の集合写真と審査員４人のコメントペーパー(写し)を送付し、今後のスピーチ力向上に役立ててもらいます。出場した子どもたち一人ひとりにとっては、貴重な思い出と将来への励みになることでしょう。



また、審査結果発表までの時間に、和歌山支部会員の栗本律恵さんが指導する３人の小学生による子ども英語落語が披露されました。落語の世界に引き込む表現力や、笑いを誘いながら話のオチに導く間の取り方が素晴らしく、聴衆はそれぞれの演目に魅了されていました。今大会の暗唱やスピーチに出場した児童生徒たちにも、参考になるものでした。会場全体が子どもたちのやる気と熱気に包まれた、とても爽やかな一日となりました。

私たち和歌山支部は、将来を担う子どもたちが大きな夢や志をもち、郷土に誇りを抱き、広く世界に目を向けることを大切にしたいと考えています。また、国際語としての英語を生きた言葉として学習していくことは、国際人として活躍する上でも極めて重要な意味をもっていると感じています。”PAX MUNDI PER LINGUAS ―言語を通じて世界の平和を―”の京都外国語大学建学の精神を生かせる社会貢献活動のひとつとして、校友会和歌山支部の会員が集い、共に楽しみ協力しながら取り組んで参りたいと思います。



なお、コンテスト開催に際しまして、京都外国語大学及び校友会本部から審査員の派遣、参加賞・副賞の提供などでご支援ご協力を頂きましたことを、心より感謝いたします。